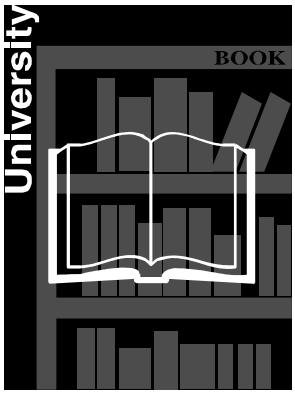
JACET
The Japan Association of College English Teachers



第 8 回英語辞書学ワークショップ 2007

「英語の辞書と語彙」

開催日:　2007 年 3 月 24 日(土)11 時 00 分～17 時 05 分
会　場:　京都外国語大学 1 号館 4 階（京都市右京区西院笠目町 6）
研究発表: 40 件, 45 名
参加費:　1, 000 円(院生・学部生は 500 円)
懇親会参加費:4,000 円(要予約)

主　催:　大学英語教育学会(JACET)英語辞書研究会
共　催:　京都外国語大学 外国語学部 英米語学科
協　賛:　JACET英語語彙研究会

事務局:　和洋女子大学外国語教育研究センター内
JACET英語辞書研究会代表　村 田　年
〒272-8533 千葉県市川市国府台 2－3－1
TEL:047-371-2083 FAX:047-371-2083
minoru.murata@nifty.com
http://members.at.infoseek.co.jp/jacetvoc/lex.html

実行委員:　赤須　薫, 石川慎一郎, 井上永幸, 大崎さつき, 小室夕里,
投野由紀夫, 南出康世, 森口　稔, 山田　茂, 吉田幸治
会場校委員:赤野一郎, 倉田　誠, 藤枝善之, 藤本幸治

英語の辞書に関心のある方々へ

春の兆しが見え始める候となりましたが，皆様におかれましてはお変わりないものと存じます．
さて，私どもの英語辞書研究会も発足して 12 年目を迎えました．今回は 40 件ほどの優れた研究発表をお願いすることができました．
今回は５室にも分かれますので，好きな発表をあちこち聞いてまわるのもよし，一室に腰を落ち着けて聞くのもよし，とにかくワークショップですから，自分から議論に参加することをモットーにして下さい．まだ結論を得ていないパイロット的な発表もあります．辞書・語彙・語法・コーパス好きが集り，６時間にもわたって，インフォーマルな雰囲気でじっくりと議論を楽しむ会にしたいと事務局・司会者一同は考えております．
会員であってもなくても，どなたでも自由に参加できます．どうぞお近くのご友人をお誘いいただいてご参加下さいますようお願い申し上げます．

１．受　付：京都外国語大学１号館４階の受付にて参加費と懇親会費（予約された方のみ）を払って，名札を受け取り，これを付けて会場へお入り下さい．（受付は混みますので早めにお出で下さい．）
２．参加費：１，０００円（学生・院生は５００円．発表者・司会者・実行委員も有料．会場校の教職員・学生は無料．ワークショップ参加の予約は必要ありません．懇親会は要予約）

３．交通のご案内：ＪＲ「京都駅」より
(1)烏丸口より市バス 28 に乗車、「京都外大前」で下車（所要乗車時間 約 30 分）
(2)地下鉄「京都」より「四条」で下車（所要乗車時間約 4 分）、阪急「烏丸」より「西院」下車（所要乗車時間 約 4 分）、徒歩西（左）へ約 12 分か西大路四条（西院）より市バス 3,28,29,67,69,71 に乗車、「京都外大前」で下車（所要乗車時間 約５分）
バス停案内図(http://www.city.kyoto.jp/kotsu/)
【地図】の Website: http://www.kufs.ac.jp/kufs_new/about/accessmap_fr.html をご覧ください。
※「1 号館」は，正門を入って左手の 7 階建ての棟です．大学のホームページの地図をご覧になってお出で下さい．

４．懇親会の予約を：ワークショップ終了後 5：15～7：15 に懇親会（会費 4,000 円）を開きます．発表者のかなり多くの方が出席する予定です．友好と情報のネットワークを張るよいチャンスです．どうぞ参加して下さい．予約が必要です．先着順で 40 名まで受け付けます．事務局（村田）まで E-mail にて予約して下さい．
５．展　示：いくつかの会社の電子辞書，online 辞書，図書，ＣＤ，ソフトウェア一等の展示があります．研究発表と連動しているものもあります．休み時間にご覧下さい．

●本ワークショップは下記の研究会運営委員の助言を得て運営されています．（ＡＢＣ順）
JACET 英語辞書研究会（運営委員）：赤野一郎・ 赤須　薫・ 浅羽亮一・畠山利一 ・
井上永幸・石川慎一郎・ 磐崎弘貞・ 加藤和男・ 小林ひろみ　南出康世・
宮井捷二・ 村田　年・ 大杉正明・ 投野由紀夫 ・八木克正・ 山田　茂

●問合わせ・予約・連絡先：（できるだけ E-mail でお願いします．）
村田　年　minoru.murata@nifty.com/ Phone・FAX:047-423-5475
〒273-0865 船橋市夏見 4-9-5

プログラム

【時間配分】

(受　　付)	10:30--
１．	11:00--11:30
２．	11:35--12:05
（昼食・展示見学）	
３．	1:10--1:40
４．	1:45--2:15
５．	2:20--2:50
６．	2:55--3:25
（休憩・展示見学）	
７．	4:00--4:30
８．	4:35--5:05

==========

懇　親　会	5:15--7:15	（要予約，4,000円）

【プログラム】

<u>第１室（141 教室）</u>司会：小川貴宏 (正)，大崎さつき (副)，発表者

1. 小林千穂（京都外国語大学）: 大学生の辞書使用
2. 小林雄一（カシオ計算機）:電子辞書の機能と検索
3. 中山夏恵（共愛学園前橋国際大学）・大崎さつき（和洋女子大学）: The Effects of Time Limit on Phrasal Verb Search and its Retention: A Comparative Study between Two Types of Dictionaries with Different Data Display (Electronic Dictionaries vs. Paper Dictionaries).
4. 森口　稔（広島国際大学）:数字で見る和英辞典の変遷
5. 相澤一美（東京電機大学），磯達夫（麗澤大学）:学習辞書における重要語
6. 小川貴宏（防衛大学校）・大崎さつき（和洋女子大学）・村田　年（和洋女子大学）:英語充実型の大学生・一般社会人用電子辞書 5 機種についての比較研究
7. 三澤一敞（元津山工業高等専門学校）:コンピューター和語辞典の試み ― ちまたに溢れているカタカナ語をわかり易くするために
8. 大崎さつき（和洋女子大学）・小川貴宏（防衛大学校）・村田 年（和洋女子大学）:高校生用電子辞書 5 機種についての比較研究

<u>第２室（142 教室）</u>司会：小室夕里 (正)，吉村由佳 (副)，発表者

1. 後藤一章(大阪大学大学院）:類似名詞における共通共起動詞の検出とコロケーション辞典への利用
2. 土屋知洋（関西学院大学大学院）:「奨学金」の意味の scholarship は可算か不可算か
3. 大庭沙蘭（関西学院大学大学院）:総称人称 we， you， and they の定義に関する一考察
4. 今道晴彦(神戸大学大学院）there 構文における述語名詞句の意味的特徴について ―辞書とコーパスの乖離をめぐって―
5. 藤枝善之（京都外国語大学）:bed と冠詞に関する一考察 ―『ユースプログレッシブ英和辞典』(2004)の解説を映画で検証する
6. 中岡典子（東京立正短期大学）英語学習辞書に関する一考察(その2）―音節構造とリズム認識における混乱
7. 小室夕里（中央大学）:ユーザー・フレンドリーなコロケーション辞典とは ―項目内構造の実験的検証

8. 吉村由佳(University of Birmingham):学習英和辞典にコーパスを生かす ― try の場合

第３室（143 教室）司会：畠山利一 (正), 吉田幸治 (副), 発表者

1.（発表募集中）
2.（発表募集中）
3. 吉川裕介(京都外国語大学大学院):構文理論と辞書 ―結果構文の意味制限を中心に―
4. 日木 満(名古屋市立大学): Relation と relationship の違い:名詞形からの考察
5. 坂井孝彦(明治大学):英語の流れの感覚と冠詞・関係詞の使い方に関する一考察
6. 吉田幸治(近畿大学):追加の文法
7. 名和俊彦(元追手門学院大学):名詞 amount の分析
8. 畠山利一(大阪国際大学):housewife と homemaker ―米英の新聞での扱いを検討する

第４室（144 教室）司会：吉村耕治 (正), 南條健助 (副), 発表者

1.（発表募集中）
2.（発表募集中）
3. 石川慎一郎(神戸大学)・石川有香(名古屋工業大学):脳の中の辞書 ―音と意味をめぐる基礎的考察
4. 井上亜依(長崎外国語大学)・八木克正(関西学院大学):言語表現の節約と冗漫
5. 南條健助(桃山学院大学):変わりゆく英米の英語発音を記述する -- G4 を中心に
6. 杉本豊久(成城大学): グラスゴー方言の正書法
7. 吉村耕治(関西外国語大学短期大学部):辞書の感覚表現に見られる日英語の相違
8. 八木克正（関西学院大学）：いくつかの新しい成句表現

第５室（145 教室）司会：中山 仁 (正), 菅野憲司 (副), 発表者（●PPなし）

1. 宮畑一範(大阪府立大学):英語多義語の意味ネットワークを記述する
2. 衛藤圭一(京都外国語大学大学院):法助動詞の語用論的側面に関する考察
3. 桑原 慧(徳島大学): someone と somebody の記述 ―心理的距離の視点から―
4. 長谷川修治(千葉県立茂原高等学校):イディオムの総数と構造に関する計量的調査
5. 菅野憲司(千葉大学): data に関する data―data の数記述に対する諸考察
6. 中山 仁(福島県立医科大学):文脈情報を考慮に入れた関係詞節の解釈と制限・非制限の区別
7. 田畑圭介(金沢学院短期大学):コーパスに基づく英和辞典の可算性と数の記述
8. 井上永幸(徳島大学):学習英和辞典のシノニム記述と語法記述 ―Corpus-Based から Corpus-Driven へ―

発表概要集

（あ）

相澤一美（東京電機大学），磯　達夫（麗澤大学）：学習辞書における重要語

★学習者辞書に頻度情報はあるが，どの語が重要であるかの表記はほとんど無い。そのため，学習者は頻度情報で学習すべき語を判断するしかない。しかし，『JACET8000　英単語』を見るまでもなく，高頻度であっても学習者には重要と思われない語が少なくない。本研究では，英英辞典と英和辞典（英日共同編集と日本編集）別に高頻度語の語義や語法の説明に充てた行数を調査し，辞書の種類や品詞の別によってどのような違いがあるかを調査する。

石川慎一郎（神戸大学）・石川有香（名古屋工業大学）：脳の中の辞書：音と意味をめぐる基礎的考察

★最近の研究により，脳の中の「辞書」についての理解が次第に進んできた。本発表では，語彙処理における音韻と意味の関係について実験に基づく基礎的な考察を行う。本発表は情報通信研究機構との共同研究の成果の一部である。

井上亜依（長崎外国語大学）・八木克正（関西学院大学）：言語表現の節約と冗漫

★筆者達はこれまで、辞書記述の中には古い表現、比較的新しい表現、さまざまな新しい表現法について論じてきた（八木(1996，1999，2000,2004，2005，2006)，八木・井上(2004)，井上(2003，2004)，Inoue (2006)）。このような言語変化を見る中で、このような言語変化がなぜ生じるのかということを考えてきた。本発表は、辞書には記述されていないようないくつかの表現について、節約と冗漫という観点から論じる。

井上永幸（徳島大学）：学習英和辞典のシノニム記述と語法記述－Corpus-Based から Corpus-Driven へ－

★Corpus-Based を謳った辞書が一般的になってきたが，Corpus-Driven な手法を加えることで，学習英和辞典のシノニム記述や語法記述はまだまだ改善が可能である。先頃刊行された『ウィズダム英和辞典』（第 2 版）を例に，記述の実際を紹介する。

今道晴彦（神戸大学大学院）：there 構文における述語名詞句の意味的特徴について―辞書とコーパスの乖離をめぐって―

★いわゆる there 構文における述語名詞句については，これまで冠詞類による定性・不定性の議論に焦点が置かれてきた。本発表では，コーパス分析に基づき，名詞句の語彙レベルにおいても特徴的な分布が認められることを指摘し，辞書作成ための新たな基礎資料として提案する。

内田諭（東京大学大学院）：　接続語の精緻な辞書記述にむけて　―while を例に―

★発表の概要：辞書における接続語の記述は動詞などの場合とは異なり文型などの文法的な情報やコロケーションを提示することが必ずしも有効ではない。本発表では、そのような接続語の意味を規定する際に主節・従属節中の主語の関係および節の意味内容を検証することが有効であるということを while を例に提示する。

衛藤圭一（京都外国語大学大学院）：法助動詞の語用論的側面に関する考察

★本発表では、法助動詞の語用論的側面をどの程度辞書記述に反映させるべきかを考察する。各法助動詞が語用論的意味を表す場合を分類し、その分類に応じた話者の心的態度を比較・検討した上で、辞書記述に関して特に重要な点を明確にすることを試みる。

大崎さつき（和洋女子大学）・小川貴宏（防衛大学校）・村田　年（和洋女子大学）：高校生用電子辞書 5 機種についての比較研究

★「自律した学習者の育成ツールとして携帯式電子辞書が挙げられる。2004 年になると主要メーカー5 社が高校生用モデルを発売し、学校推薦辞書にも推薦されるようになりつつある。本発表では、高校生用 5 機種のコンテンツ・インターフェイス・検索性・音声について比較分析した結果を報告する。

大庭沙蘭（関西学院大学大学院）：総称人称 we, you, and they の定義に関する一考察
★English personal pronouns- we, you, and they - have a generic use, referring to “people in general.” The purpose of this study is to survey the generic use of English personal pronouns in a dictionary.

（か）
甲斐雅之（京都女子大学）：英和辞典における文法項目とその記述
★本発表では、文法項目を習得する上で必要な中心的な役割を果たす基本語（例：

who や whom 等）やそういった基本語を含む成句（例：so much so that 等）の辞書における記述に関する問題点を、学習者の立場に立って各論的に述べてみたい。

菅野憲司（千葉大学）： data に関する data―data の数記述に対する諸考察―
★data は数に関して、①複数：These data are sufficient for our purpose.(New Global)・②単数：The data has been fed into the computer.(Progressive)・③不可算：Additional data is available from the president of the firm.(Random House)は辞書記述があり、単数の A data is sent ....や...the datas are really available 及び不可算の much data/the large amount of data や(*a) part of the data のような実例をどのように記述すべきか等を考察する。

桑原　慧（徳島大学）: someone と somebody の記述 ―心理的距離の視点から―
★シノニムとして扱われる someone と somebody について、共起する動詞の種類の変化とともに、話者の心情から読み取ることのできる、someone と somebody の使用時における心理的な距離の違いに関して研究発表をする。

小川貴宏（防衛大学校）・大崎さつき（和洋女子大学）・村田　年（和洋女子大学）：英語充実型の大学生・一般社会人用電子辞書 5 機種についての比較研究
★日本で発売され、英語関連のコンテンツの充実した主に「大学生・一般社会人向け」と考えられる5社5機種の電子辞書を、ユーザーインターフェイス、内蔵コンテンツおよびその検索性などの面から比較し、使用者の使い勝手や現状での問題点などについて考察する。

小林千穂（京都外国語大学）: 大学生の辞書使用
★大学生を対象に、よく使用している辞書について、その印象および使用方法をインタビューによって調査した。電子辞書の使用者と印刷辞書の使用者、および英語力の高い学生と低い学生の間には、いくつかの相違点が見られたが、学生全体に共通するパターンもあった。

小林雄一（カシオ計算機）：電子辞書の機能と検索
★ 2007 年モデルの新機能を中心に、検索技術などを紹介します。

小室夕里（中央大学）：ユーザー・フレンドリーなコロケーション辞典とは－　項目内構造の実験的検証
★オックスフォード・コロケーション辞典に基づく辞書項目を使用したユーザー・スタディを大学生対象に行い、項目内の構造が使用者にとってどの程度明白であるかどうかを明らかにし、より使いやすいコロケーション辞典の提案を行う。

後藤一章(大阪大学大学院) :類似名詞における共通共起動詞の検出とコロケーション辞典への利用
★自然な英文を作成する上で，コロケーション辞典が果たす役割は非常に大きいと言える。ただし，従来の辞典で調べられる共起表現は，使用者が設定したキーワードに依存する。そこで，本発表では意味的に類似した共起表現をグループとして提示する方法を提案する。

（さ）
坂井孝彦（明治大学）：英語の流れの感覚と冠詞・関係詞の使い方に関する一考察
★滑らかな英語の理解・紡出のためには、辞書などに記述される英語の流れに対する遡及的分析を極力へらし、英語流を順送りに捕捉するための説明を補完してゆくことが望ましい。関係詞節を包含する例

文を俎上にのせて、流れに沿って読み書きするはずの母語話者の感覚の働かせ方を探ってみたい。

杉本豊久（成城大学）「グラスゴー方言の正書法」
★スコットランドの言語事情は、多民族による言語接触の歴史を反映して複雑であるが、その中でもグラスゴーの方言は'GlaswegianPatter'と呼ばれ、特異な存在である。1960 年代にテレビ番組のシリーズ"Parliamo Glasgow"で評判になり、広く知られるようになった独特のつづり字法を分析し、その特徴を探る。

（た）
田畑圭介（金沢学院短期大学）：コーパスに基づく英和辞典の可算性と数の記述
★現在出版されている英和辞典には名詞の項目ごとに可算性や数に関する工夫された表示や注記が記載されている。本発表ではコーパスデータに見られる名詞 facility などの特性を示し、英和辞典の名詞項目記述におけるコーパスの活用について論じる。

土屋知洋（関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科）：「奨学金」の意味の scholarship は可算か不可算か
★英英・英和辞典に於いて「奨学金」を意味する scholarship は可算名詞として定義されている。しかし、ネイティブスピーカーの中には同語義で不可算名詞として利用するものもいる。本発表では、まずこの語義での典型的な用法を提示し、不可算で利用される場合の使用条件を考えてみたい。

（な）
中山　仁（福島県立医科大学）：文脈情報を考慮に入れた関係詞節の解釈と制限・非制限の区別
★一見して制限的関係詞節と思われるものの中には、実際には非制限的関係詞節として解釈すべきものや、制限的・非制限的の二通りに解釈が可能なものがある。これらを文脈情報をヒントにしていかに解釈されるかを考え、このような文の解釈に役立つ情報の辞書への取り込みについて検討する。

中山夏恵（共愛学園前橋国際大学）・大崎さつき（和洋女子大学）： The Effects of Time Limit on Phrasal Verb Search and its Retention: A Comparative Study between Two Types of Dictionaries with Different Data Display (Electronic Dictionaries vs. Paper Dictionaries)
★This study aims to investigate the following two research questions. When the same user used both ED and PD in a limited amount of time, does the difference of the data display of respective dictionaries affect (1) phrasal verb search and (2) its retention ?

名和俊彦（元追手門学院大学）：名詞 amount の分析
★名詞 amount のとる統語形式と連語関係において、amount の可算・不可算の特徴、連語する形容詞の種類と特徴、amount が前置詞の目的語になる場合の特徴、amount(s) of に関わる制約と後続する名詞句の特徴を、先行研究や言語資料等に基づいて分析・抽出する。

中岡典子（東京立正短期大学）英語学習辞書に関する一考察(その2)―音節構造とリズム認識における混乱
★辞書に点と線分によるリズム掲載を提案する。日本人学習者が引き起こしがちな英語音節とリズム認識上の混乱を防ぐためである。この発表では混乱が生じやすい理由を聞こえ度のグラフを使って分析し、視覚的に提示する。

南條健助（桃山学院大学）：変わりゆく英米の英語発音を記述する -- G4 を中心に
★わが国の英和辞典の発音表記体系は、何十年にも亘ってほとんど変わらないままであったが、その間に英米の標準発音は大きく変化してきた。今日実際に英米で用いられている発音の実態をできるだけ英和辞典に反映しようとした一つの試みについて論じる。

（は）
長谷川修治（千葉県立茂原高等学校）：イディオムの総数と構造に関する計量的調査

★本研究では、イディオムと呼ばれる表現が実際に何種あるかを、収載表現数の多さを誇るイディオム辞典を対象に調査する。そして、どのような文法構造のものがどれくらいあり、構成要素が何語からなるものが多いかを、それぞれ計量的に調査し分析する。

畠山利一（大阪国際大学）：housewife と homemaker一米英の新聞での扱いを検討する
★PC の観点から housewife を避けて homemaker を使う方がよいと言われる．それを反映した記述をする辞書もある．米英の新聞ではどのような扱いになっているだろうか．Lexis．com を利用して Washington Post など数誌を検索して検討する．housewife と homemaker の使用について 1970 年代から 2006 年までの経年変化は新聞ごとに大きく異なる．

日木満（名古屋市立大学）， Relation と relationship の違い：名詞形からの考察
★relation と relationship は辞書の定義をみる限り意味的に酷似している部分があるが、冠詞、所有代名詞、複数形語尾の有無についてはかなり違った様相をみせる。本発表では、2 語の使われ方を名詞形の観点から考察し、両者の違いに迫ってみたい。（名詞形：[o N], [an N], [o Ns], [the N], [the Ns], [one’s N], [one’sNs]）

藤枝善之（京都外国語大学）：bed と冠詞に関する一考察 ―『ユースプログレッシブ英和辞典』(2004)の解説を映画で検証する
★名詞 bed に関する表題の辞書の「寝るという機能を表すと不可算名詞扱いで無冠詞になる」、および教育現場においてしばしばなされる「建造物や場所を表す名詞が本来の機能を表す場合は無冠詞になる」という説明の妥当性について、映画を用いて検証する。

（ま）
三澤一敞(無職)：コンピューター和語辞典の試み ― ちまたに溢れているカタカナ語をわかり易くするために
★2002 年 8 月から 12 月にかけ YAHOO 掲示板言語学カテゴリに投稿した内容を，当時の雰囲気そのままに少し手を加え，約 10 ページのテキストとして使用する。必要により，OHP またはパワーポイントも使用する。取り上げた用語は約 80 語で，学術的研究というよりはやや趣味的ものである。

宮畑一範（大阪府立大学）：英語多義語の意味ネットワークを記述する
★辞書において、多義語の記述は、重要な課題のひとつである。この発表では、認知的な観点から、英語の多義語が担う複数の意義の関連性を明示し、意 味の全体像を記述する試みの実践を紹介するとともにその展望について述べ る。

森口稔（広島国際大学）：数字で見る和英辞典の変遷
★1960 年代の終わりから現在までに出版された学習和英辞典を中心に収録項目数、ページ数、価格、附録、改訂頻度、スタッフの数、スタッフに占める英語母語話者の割合などを調査し、その変遷を概観する。

（やらわ）
八木克正（関西学院大学）：いくつかの新しい成句表現
★Phraseology の観点から、今使われている辞書にはみられない新しい（と思われる）英語の成句表現をいくつかとりあげて、その意味・機能を論じる。

吉川裕介（京都外国語大学大学院）：構文理論と辞書―結果構文の意味制限を中心に―
★本発表では、構文理論が学習者英和辞典でどのように扱われているのかを中心に観察する。具体的には結果構文を取り上げ、理論をどの程度まで辞書に反映させるのかを前提に、構文理論と実際に使用された英語との間に見られる乖離を、コーパスデータを基に指摘する。

吉田幸治（近畿大学）： 追加の文法
★従来の言語研究では、本来的に不必要な言語要素が追加される現象はあまり扱われてこなかった。本

研究では、最近の英語の変化に見られる言語要素の追加現象を意味論・語用論の観点から考察し、その帰結として、英語辞書の記述にも部分的な修正が必要となることを示す。

吉村耕治（関西外国語大学短期大学部）：辞書の感覚表現に見られる日英語の相違
★現代の日本語と英語では、五感を通して感じたことを言語化した感覚表現が異なる場合がある。味覚が共感覚の「渋い色」は、聴覚が共感覚の“a quiet color”に、「黄色い声」は“a shrill voice”、「辛い」は“hot”になる。共感覚表現とオノマトペも含めて文化の差を指摘したい。

吉村由佳（University of Birmingham）：学習英和辞典にコーパスを生かす － try の場合
★学習英和辞典はコーパスを生かした編集がまだ不十分である。本発表は学習英英辞典と学習英和辞典の違いをふまえた上で、英和辞典の編集にコーパスを生かすことができるか、try という語を題材に考えるものである。